



1年間の活動方針 (2018. 8. 26)



生野銀山カラミ石調査 (2018. 9. 11)



船津町八幡の小芋祭り (2018. 10. 28)



仏柔道の父・川石酒造之助 (2019. 1. 19)



1年間の活動報告 (2019. 3. 20)



文学館で学ぶ三上参次 (2019. 4. 28)



銀の馬車道船山地区盛り上げ祭り (2019. 6. 23)



八幡新村開発由来① (2019. 8. 23)



八幡新村開発由来② (2019. 8. 23)



山本氏に伊勢音頭について学ぶ (2019. 9. 23)

しつといつ？

養父市と

・フランス

・富岡製糸場

シルクの

馬車道で

繋いだ赤い糸

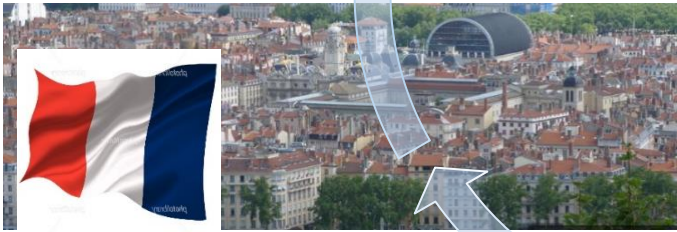
養父市 上垣守国の「養蚕秘録」



フランスの技術指導で息を吹き返した生野鉾山。そのフランスと但馬は確かな赤い糸で結ばれていた。その結び目は、養父市生まれの上垣守国の一冊の本「養蚕秘録」であった。

養父市に生まれ、養蚕の父と呼ばれた上垣守国は一八〇三年「養蚕秘録」を著した。当時長崎の医師であったシーボルトは、その価値に目を付け、フランス語とイタリア語に翻訳し出版した。十九世紀末に欧州に蚕の病が発生したこともあり、日本式養蚕は瞬く間に欧州各地に広がった。後、成長した欧州の技術を取り入れ建設したのが、群馬県の富岡製糸場です。家出息子が立派に成長し帰ってきたと言うことでしょうか。

世界遺産リヨン市 伝統的建造物保存地



十九世紀初め、仏の製糸は世界一でその中心がリヨンであった。一八八五年微粒子病が広がり仏の養蚕農家は、壊滅的な打撃を受けた。汚染されていない日本の桑卵をと、要請された幕府から、最上級の桑卵を得、仏は世界を席巻した。後、仏は富岡製糸場を技術援助した日本に圧倒され、養蚕業は大戦を境に姿を消した。現在は国内の合成繊維の三分の二を占め、欧州第一位の繊維産業集積地を形成している。

世界遺産 富岡製糸場と絹産業遺産群



一八七二年富岡製糸場を仏の技術援助を得て建設。養蚕と生糸は「富国強兵」の手段と位置づけられ、富岡工場をモデルに各地に建設していった。生糸はピーク時（一九〇〇）には輸出の七割を占め、得た利潤で軍備、産業等の近代化を進め、繊維産業あつての日本の近代化であった。昭和初期には農家の四割が養蚕に従事、日本の繭生産量は世界一を誇った。